

国語学習プリント

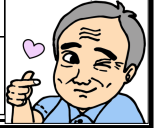
date: 年 月 日

学習内容: 本文 読書

年 組 番

蜘蛛の糸 芥川龍之介

氏名



蜘蛛の糸

芥川龍之介

ある日のことでございます。お釈迦様は極楽の蓮池の縁を、独りでぶらぶらお歩きになつていらつしやいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のように真っ白で、そのまん中にある金色のすいからは、なんともいえないよい匂いが、絶え間なく辺りへあふれております。極楽はちよつと朝なのでございませう。

やがてお釈迦様はその池の縁におたすみになつて、水の面を覆っている蓮の葉の間から、ふと下の様子をご覧になりました。この極楽の蓮池の下は、ちよつと地獄の底にあつておりますから、水晶のような水を透き通して、三途の河や針の山の景色が、ちよつどのぞき眼鏡を見るように、はつきりと見えるのでございませう。

するとその地獄の底に、韃陀多という男が一人、他の罪人と一緒にうごめいている姿が、お目にとまりました。この韃陀多という男は、人を殺したり家につけたり、いろいろ悪事をはたらいた大とろぼうでございませうが、それでもたつた一つ、善いことをいたした覚えがございませう。と申しますのは、ある時この男が深い林の中を通りますと、小さな蜘蛛が一匹、道端をはつていくのが見えました。そこで韃陀多は早速足を上げて、踏み殺そうといたしました。が、「いや、いや、これも小さいながら、命のあるものにちがいない。その命をむやみにとるといふことは、いくらなんでもかわいそうだ。」と、こつ急に思い返して、とつとつその蜘蛛を殺さずに助けてやつたからでございます。

お釈迦様は地獄の様子をご覧になりながら、この韃陀多には蜘蛛を助けたことがあるのをお思い出しになりました。そしてそれだけの善いことをした報いには、できるなら、この男を地獄から救出してやろうとお考えになりました。幸い、そばを見ますと、翡翠のような色をした蓮の葉の上に、極楽の蜘蛛が一匹、美しい銀色の糸をかけております。お釈迦様はその蜘蛛の糸をそつとお手にお取りになつて、玉のような白蓮の間から、は

るか下にある地獄の底へ、まっすぐにそれをお下ろしなさいませう。

二

こちらは地獄の底の血の池で、他の罪人と一緒に、浮いたり沈んだりしていた韃陀多でございませう。なにしろどちらを見ても、真つ暗で、たまにその暗闇からぼんやり浮き上がっているものがあると思ひますと、それは恐ろしい針の山の針が光るのでございませうから、その心細さといつたらございませう。そのうえ辺りは墓の中のようにしんと静まり返つて、たまに聞こえるものといつては、ただ罪人がつくつかすかなため息ばかりでございませう。これはこへ落ちてくるほどの人間は、もうさまさまな地獄の責め苦しみに疲れはてて、泣き声を出す力さえなくなつて、いづれでございませう。ですからさすが大とろぼうの韃陀多も、やはり血の池の血にむせびながら、まるで死にかつた蛙のように、ただもがいてばかりおりました。

ところがある時のことでございます。なにげなく韃陀多が頭を上げて、血の池の空を眺めると、そのひっそりとした闇の中を、遠い遠い天上から、銀色の蜘蛛の糸が、まるで人目にかかるのを恐れるように、一筋細く光りながら、するすると自分の上へ垂れてまいりては、いませうか。韃陀多はこれを見ると、思わず手を打つて喜びました。この糸にすがりついて、どこまでも上つていけば、きつと地獄から抜け出せるのに相違ございませう。いや、うまくいくと、極楽へ入ることさえもできませう。そうすれば、もう針の山へ追ひ上げられることもなくなれば、血の池に沈められることもあるはずはございませう。

こつと思ひましたから、韃陀多は、早速その蜘蛛の糸を両手でしっかりとつかみながら、一生懸命に上へ上へとたぐり上り始めました。もとより大とろぼうのことでございますから、こつこつには昔から、慣れきつてい

た。しかし地獄と極楽との間は、何万里となくございませう。

から、いくら焦つてみたところで、容易に上へは出られませう。ややしばらく上るうちに、とつとつ韃陀多もくたびれて、もう一たぐりも上の方へは上れなくなつてしまいました。そこで仕方がございませうから、まず一休み休むつもりで、糸の中途にぶらぶら下がりながら、はるかに目の下を見下ろしました。

すると、一生懸命に上つたかゝりであつて、さつきまで自分がかいた血の池は、今ではもう闇の底にいつの間にか隠れております。それからあのぼんやり光っている恐ろしい針の山も、足の下になつてしまいました。このぶんで上つていけば、地獄から抜け出すのも、存外わけがないかもしれませう。韃陀多は両手を蜘蛛の糸に絡みながら、こへ来てから何年にも出したことのない声で、「しめた。しめた。」と笑ひました。ところがふと気がつきませうと、蜘蛛の糸の下の方には、数かぎりもない罪人たちが、自分の上つた後をつけて、まるで蟻の行列のように、やはり上へ上へ一心によじ上つてくるのでございませうか。韃陀多はこれを見ると、驚いたのと恐ろしいのとで、しばらくはただ、大きな口を開いたまま、目ばかり動かしておりました。自分一人でさえ切れそうなの、この細い蜘蛛の糸が、どうしてあれだけの人数の重みに堪えることができるか。もし万一途中で切れたら、いよいよ切れたら、せつかくこへまで上つてきたこの肝腎な自分までも、もとの地獄へ逆落としまわなければなりません。そんなことがあつたら、大変でございませう。が、さういふうちにも、罪人たちは何百となく何千となく、真つ暗な血の池の底から、うようよとはい上かつて、細く光っている蜘蛛の糸を、一列になりながら、せつせと上つてまいります。今のうちにどうにかしなければ、糸はまん中から二つに切れて、落ちてしまふのにはちがひありません。

そこで韃陀多は大きな声を出して、「こら、罪人ども。この蜘蛛の糸は俺のものだぞ。おまえたちはいったい誰に聞いて、上つてきた。下りろ。下りろ。」とわめきました。そのとんでございませう。今まではなんともなかつた蜘蛛の糸が、急に韃陀多のぶらぶら下がつている所から、ぶつりと音を立てて切れました。ですから韃陀多もたまりませう。あつというまもなく風を切つて、こまのよう

国語学習プリント

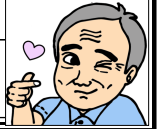
date: 年 月 日

学習内容: 本文 読書 読解

蜘蛛の糸 芥川龍之介

氏名

年 組 番



くる回りながら、みるみるうちに闇の底へ、真逆さまに落ちてしまいました。
あとにはただ極楽の蜘蛛の糸が、きらきらと細く光りながら、月も星もない空の中途に、短く垂れているばかりでございませす。

三

お釈迦様は極楽の蓮池の縁に立つて、この一部始終をじっと見ていらしゃいましたが、やがて韃陀多が血の池の底へ石のように沈んでしまいますと、悲しそうなお顔をなさりながら、またぶらぶらお歩きになり始めました。自分ばかり地獄から抜け出そうとする、韃陀多の無慈悲な心が、そうしてその心相当な罰を受けてもとの地獄へ落ちてしまったのが、お釈迦様のお目から見ると、あさましくおぼしめされたのでございませす。
しかし極楽の蓮池の蓮は、少しもそんなことには頓着いたしません。その玉のような白い花は、お釈迦様のおみ足のまわりに、ゆらゆらとなを動かして、そのまん中にある金色のずいからは、なんともいえないよい匂いが、絶え間なく辺りへあふれております。極楽ももう昼に近くなったのでございませす。

【教科書の注釈】

- ①お釈迦様 釈迦牟尼。仏教の開祖。苦学苦行し悟りを得た。
- ②ずい 植物の花の中心にある、おしべとめしべ。
- ③三途の川 死後、冥土の途中にあるとされる三つの瀬。
- ④針の山 地獄にあるとされる多くの針が突き立った山。
- ⑤翡翠 光沢のある鮮やかな緑色をした玉。
- ⑥むせぶ 食べ物や飲み物などで息をつまらせ、せきこむこと。
- ⑦無慈悲 思いやりやあわれみの心がないこと。
- ⑧つてな 「台」の意味から転じて、花びらの部分。

▽場面情景をとらえる

○お釈迦様は①でこで、②なにをしている

① 極楽(極楽の蓮池の縁)

② ぶらぶらお歩きになっている

・その場所の時刻帯は

朝

・その場所の特徴

蓮池の下は地獄になっている

▽韃陀多とはどんな男か

大どろぼうだが、一つだけ善いことをしたことがある人物

▼善いことをした報いについて

a 善いこととは

蜘蛛を踏み殺さず助けてやったこと

b 報いとはどんな意味か

ある行為の結果として身にはね返ってくる事柄。

善いはずれについていろいろが、現在では悪い行為の結果に

つてなことが多い。

▽思わず手を打って喜びましたとあるが、

韃陀多が喜んだ理由とは

この糸にすがりついて、どこまでも上っていけば、きつと地獄から抜け出せようまくいくと、極楽へ入ることもづきんで思ったから

▽「しめた。しめた。」と笑いましたとあるが、

その理由となる一文を書き抜く。

このぶんで上っていけば、地獄から抜け出すのも、存外わけがないかもしれません。

▽どうしてあれだけの人数の重みに堪えることができましよう について

①このような言い回しを何というか。

(反語)

形の上では疑問と見えるが、内容としては疑問ではなく相反する方に確信を持っている言い回し

導線をつけて○○か。といった形をとり、あとに隠れたいや、○○ない。「を伴った型

※言ったこととはうらはらはな事柄が本来の意味となる。

②どのような意味をとらえたらよいか。

いや、堪えることにはづきない。

▽悲しそうなお顔をなさりとあるが、お釈迦様が悲しそうな顔をした理由が書かれている一文

最初の五字

自分ばかり

☆この作品から感じえたことを書いてみよう。